

精神科領域専門医研修プログラム

- 専門研修プログラム名：福島県立医科大学附属病院 精神科専門医研修プログラム

- プログラム担当者氏名：三浦 至
住 所：〒960-1295 福島県福島市光が丘 1 番地
電話番号：024-547-1331
F A X：024-548-6735
E-mail：itaru@fmu.ac.jp

- 専攻医の募集人数：(10) 人

- 応募方法：
履歴書を下記宛先に送付の上、面接申し込みを行う。
宛先：〒960-1295 福島県福島市光が丘 1 番地 福島県立医科大学
神経精神医学講座 三浦 至
TEL：024-547-1331
FAX：024-548-6735
担当者：三浦 至(准教授)

- 採用判定方法：
部長・副部長が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）
精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命（全プログラム共通項目）
患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

本施設群は 25 の施設群から成っている。1, 2 年目は研修基幹病院で、3 年目は研修連携施設を含めローテートして研修する。専攻医は年 5 名程度を予定している。研修基幹施設は福島市にある福島県立医科大学附属病院であり、主要な精神疾患の患者を受け持ち、面接法、診断と治療計画、精神療法、薬物療法の基本を学ぶ。さらに、思春期症例、身体合併症、コンサルテーション・リエゾン、難治性精神疾患治療等、臨床を幅広く経験し、脳波検査・MSLT（睡眠潜時反復検査）・光トポグラフィ検査・磁気刺激療法・CBT（認知行動療法）・mECT（修正型電気痙攣療法）・UBOM・クロザピンによる薬物療法などの検査技術・治療技術を習得できる。また、リエゾン精神医学においては整形外科と連携して治療を実施している全国的にも有数の治療施設であり、腰痛をはじめとする疼痛に悩む患者を全国から受け入れており、リエゾンカンファレンスなどで学ぶことも出来る。リエゾン活動のみならず、多彩な分野を専門とする指導医が揃っており「児童・思春期外来」「てんかん外来」「光トポグラフィ検査外来」などの専門外来も充実している。東日本大震災及び福島第一原子力発電所の事故後は、福島県県民健康調査と連携したり各地からの支援を受け入れたりすることによって、災害被災県として災害メンタルヘルスの研修にも力を注いでいる。その他、研究・学会発表についても指導を受けることが出来る。指導医は 3 名。

以下は研修連携施設である。一般財団法人大原記念財団清水病院は社会復帰を目指した多職種によるチーム医療を実践し、地域精神医療を積極的に展開している。また、総合病院関連の精神科病院としてリエゾン精神医学について数多くの経験を積むことができる。措置入院の症例もあり幅広い数多くの経験が積める病院である。指導医は 3 名。一般財団法人新田目病院は思春期から老年期まで幅広く精神科臨床を対象としており、修正電気痙攣療法を経験することができ、認知症治療についても学ぶことが出来る。指導医は 5 名。一般財団法人 桜ヶ丘病院は社会復帰への取り組み、地域精神医学について学ぶことが出来る。措置入院などの精神科救急、児童思春期精神医学も経験できる。指導医は 1 名。一般財団法人竹田健康財団 竹田総合病院は有床総合病院精神科であり、スーパー救急病棟での精神科救急、リエゾン・コンサルテーション、司法精神医学、老年精神医学、クロザピン治療、修正電気痙攣療法などについて幅広く学ぶことが出来る。指導医は 4 名。医療法人安積保養園附属あさかホスピタルは郡山市にある 495 床の単科精神科病院で、精神科救急病棟を有し医療観察法による鑑定入院及び措置入院をはじめ多数の入院症例を経験できる。さらに児童・思春期精神医学や、先進的な地域移行、生活支援、就労訓練などについても学ぶことが出来る。指導医は 9 名。医療法人為進会 寿泉堂松南病院は統合失調症、気分障害と言った代表的な精神疾患を中心に、幅広く疾患を経験できる。アルコール依存症の集団療法や医療観察法の鑑定入院についても学ぶこと

が出来る。指導医は3名。医療法人 板倉病院は単科精神科病院で、統合失調症を中心に作業療法等や地域資源を活用した退院支援について経験できる。措置入院、医療保護入院等の非自発性入院や行動制限を必要とする症例も多い。指導医は1名。医療法人落合会 東北病院当院は地域の精神科病院として児童思春期から壮年期、老年期まですべての年代を対象に幅広い精神科臨床を経験できる。精神科急性期治療病棟を有し早期退院のための退院支援プログラムや、精神科デイケア、グループホーム、訪問看護、家族会、指定就労継続支援 B 型作業所等の運営により、精神科急性期治療から社会復帰、地域生活支援までの一連の経験を積む事ができる。指導医は4名。医療法人湖山荘 あずま通りクリニックは福島市内のクリニックで、認知症診療に特に力を入れており、仮性認知症例から重度処遇必要例など多くの症例を経験出来る。児童思春期症例についても学ぶことが出来る。指導医は4名。医療法人湖山荘 福島松ヶ丘病院は措置入院、児童・思春期の対応困難例やあずま通りクリニックとの連携で認知症の入院症例を経験できる。指導医は4名。医療法人済精会 長橋病院は認知症（専門外来あり）、気分障害、神経症性障害、統合失調症について幅広く学ぶことが出来る。また精神科救急からリハビリまでを一貫して経験できる。指導医は2名。医療法人慈心会村上病院は認知症専門外来、及び認知症治療病棟を備えており、認知症治療について専門的に学ぶことが出来る。児童思春期専門外来を週1回開設していることも特徴である。指導医は2名。医療法人篤仁会 富士病院は地域精神科医療に積極的に取り組んでおり、医療観察法の指定通院医療機関であり、精神鑑定も含め司法精神医学について学ぶことが可能である。指導医は2名。医療法人明精会 会津西病院は急性期治療病棟を中心に措置入院など非自発的入院や行動制限を必要とするような症例や重度の BPSD を有する認知症など、幅広く経験できる。アルコール依存症の治療プログラムを持ち、クリニカルパスを用いて多職種で治療にあたっている。内科病棟 68 床を持ち、他科と連携を取りながらの合併症の治療経験も可能である。このほかにも、地域に密着した精神科医療を経験できる。指導医は2名。公益財団法人磐城済世会 舞子浜病院は総合病院に付設された精神科病院である。精神科急性期病棟を備え、外来・入院を通じて多職種チーム医療を実践している。専門外来(認知症、てんかん、児童思春期、アルコール各外来)、精神科デイケア、外来及び入院作業療法、言語療法、多職種による精神科訪問看護、医療観察法指定通院医療、当事者支援など多くを学ぶことが出来る。総合病院での精神科外来も設置されていて、地域の病院・医院とのコンサルテーションリエゾンも経験できる。指導医は3名。公益財団法人金森和心会 針生ヶ丘病院は精神科急性期治療病棟を有し、急性期、措置入院、思春期症例の経験ができる。発達障害児（特に小児自閉症）と家族の成育支援を実施している成育支援室において、発達障害児の診断、療育の指導を受けられる。指導医は3名。公益財団法人金森和心会 雲雀ヶ丘病院は急性期対応型病棟を有し、幅広い疾患患者(統合失調症、感情障害、ストレス関連疾患、アルコール依存症、BPSD の顕著な認知症など)について学ぶことが出来る。児童精神科外来での発達障害診療、震災後の災害精神医

療について学ぶことができる。指導医は2名。公益財団法人星総合病院 星ヶ丘病院は精神科急性期治療病棟、認知症治療病棟を含め、幅広く、数多い症例をみる事ができる。専門外来としてストレス外来・児童外来・もの忘れ外来を実施し多様な臨床場面を経験できる。社会復帰のための大規模デイケアや訪問看護などについても学ぶことが出来る指導医は5名。公立大学法人福島県立医科大学 会津医療センター附属病院は226床24診療科からなる総合病院で、特にもの忘れ専門外来、若年認知症専門外来、児童専門外来を置いており、他にも多種多様な精神疾患の外来診療について経験することが可能である。また、緩和ケア病棟を有し緩和ケアについても経験可能である。指導医は4名。社会医療法人一陽会 一陽会病院は急性期治療病棟、ストレスケア病棟を有し、様々な症例が豊富に経験できる。特に、リワークプログラム、うつ状態の方を対象にした集団認知行動療法、就労支援プログラムなどのプログラムを備え復職までの流れを経験できる。多職種チームでの退院支援、訪問看護やデイケア、グループホームなどを通じた地域生活について、また、司法精神医学領域の症例も経験することができる。指導医は2名。福島県厚生農業協同組合連合会 塙厚生病院は有床総合病院精神科としてコンサルテーション・リエゾン精神医学に力を入れており、身体合併症を有する精神疾患患者の治療や、せん妄、器質・症状性精神障害などの症例を数多く経験でき、総合病院精神医学を学ぶことが出来る。また、老年期精神障害についても経験を積むことが可能である。一方、地域における精神科診療を担い、一般精神科と総合病院精神科とをバランス良く学ぶことが出来る。指導医は1名。福島県総合療育センターは児童を対象とし、病院であるが児童福祉法上では児童福祉施設である複合的な機能を有する施設である。肢体不自由児、重度心身障害児の入院機能があり、精神科外来診療は自閉スペクトラム症・注意欠如多動症・学習障害・知的障害の診断と療育を中心に行われ、専門的な児童精神医学の経験を積むことが可能である。指導医は1名。福島県立矢吹病院は精神科急性期治療病棟（将来はスーパー救急病棟化）において措置入院・応急入院等の急性期患者（F0-F4）の治療や、デイケア（大規模）や作業療法等の精神科リハビリテーション、さらには訪問看護などを通し、精神疾患患者の総合的な治療の流れを習得できる。慢性・重症病棟では、他病院から紹介される重症・慢性患者やマッチング事業（原発事故で他県に転院したままの相双地区患者の帰還支援事業）、クロザピン治療、司法精神医学、児童思春期症例についても経験することができる。指導医は4名。福島赤十字病院は一般病棟300床、24診療科を有する総合病院であり、コンサルテーション・リエゾンでは、多彩な疾患、症例を経験することが可能である。緩和ケアチームに参加し、がん医療における精神医学的ニーズに関して学び、治療経験を積むこともできる。また、50床の精神科閉鎖病棟を有しており、身体合併症治療に加え、うつ病、精神病性障害、身体表現性障害を含む多様な精神疾患の入院治療の実践経験を積むことができる。加えて、修正電気けいれん療法、認知症についても実践的な経験を積むことが可能である。指導医は2名。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数：68人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	4699	1338
F1	673	342
F2	7391	4552
F3	7050	1800
F4 F50	5679	805
F4 F7 F8 F9 F50	5183	1368
F6	222	79
その他	2191	153

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名：福島県立医科大学 附属病院
- ・施設形態：公的病院
- ・院長名：紺野 慎一
- ・プログラム統括責任者氏名：矢部 博興
- ・指導責任者氏名：矢部 博興
- ・指導医人数：(5) 人
- ・精神科病床数：(34) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	162	17
F1	15	8
F2	27	75
F3	65	59
F4 F50	134	82
F4 F7 F8 F9 F50	94	40
F6	3	5
その他	40	15

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、福島県唯一の大学病院として特定機能病院の指定を受けている。病床数は778床であり、精神科病床は34床で運用されている。高度専門医療機関として、統合失調症(F2)、気分障害(F3)、神経症性障害(F4)のみならず、難治性の症例を中心に近年増加しつつある摂食障害（F50）や発達障害（F7,F8,F9）の診療を豊富に経験できる。統合失調症は県内でも数少ない修正電気けいれん療法やクロザピン治療施設でもある。発達障害は児童/思春期例のみならず、全国に先駆けて成人期発達障害の診療も行っている。また、整形外科や糖尿病内科とのリエゾン・コンサルテーション精神科治療も盛んであり、貴重な症例を経験できる。心理士や作業療法士とのチーム医療も充実しており、認知行動療法、精神力動に基づく精神療法などの習得もできる。

B 研修連携施設

① 施設名：一般財団法人大原記念財団清水病院

- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：角田耕也
- ・指導責任者氏名：鈴木喜明
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 182 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	97	4
F1	36	11
F2	380	219
F3	119	38
F4 F50	99	3
F4 F7 F8 F9 F50	7	4
F6	2	0
その他	18	15

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は大原総合病院附属の精神科病院であり、182床（開放104床、閉鎖78床）の入院病床を持ち、精神科作業療法等を実施し、社会復帰を目指した多職種によるチーム医療を実践している。また、精神科デイケア（大規模）、精神科訪問看護を実施し、小規模作業所やグループホーム等社会資源との連携を密にとりながら、地域精神医療を積極的に展開している。病院行事を通して地域住民との接点をもち、精神障害者に対する偏見の解消にも努めている。さらに、総合病院関連の精神科病院として、他科との連携協力体制を保ち可能な範囲での身体合併症治療を行ったり、大原総合病院の精神科外来ではリエゾン精神医学について数多くの経験を積むことができる。措置入院の指定病床も有しており、幅広い数多くの経験が積める病院である。

② 施設名：一般財団法人新田目病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：菅野 智行
- ・指導責任者氏名：菅野 智行
- ・指導医人数：（ 5 ）人
- ・精神科病床数：（ 215 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	73	52
F1	22	7
F2	300	158
F3	333	17
F4 F50	203	7
F4 F7 F8 F9 F50	35	4
F6	9	0
その他	85	10

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は戦後間もなく開設された精神科単科病院であり、長年にわたり地域の精神医療を担ってきた。病床は現在 215 床であり、精神病棟、精神療養病棟並びに認知症治療病棟を有している。平成 27 年度には、修正電気けいれん療法の導入など入院治療の高度化を図るとともに、長期入院患者の地域移行を踏まえて、デイケアの大規模化や専従看護師を配した訪問看護の拡充を行ってきた。精神科救急の入院症例も多く、思春期から老年期まで幅広く精神科臨床を対象としており、また入院対応も含めた認知症治療にも力を入れている。

③ 施設名：一般財団法人 桜ヶ丘病院

- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：渡部康
- ・指導責任者氏名：渡部康
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 180 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	21	14

F1	28	15
F2	421	195
F3	547	33
F4 F50	404	14
F4 F7 F8 F9 F50	554	8
F6	9	4
その他	1155	11

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

福島市北部にある180床の精神科単科病院である。平成23年に病棟建て替えを行い、新しい施設で研修を行うことが出来る。早期の社会復帰へ取り組み、院内では作業療法プログラム、退院後はデイケア・訪問看護部門を強化しつつ、地域社会の中で個々に見合った自立した生活をおくれるよう地域・関係機関との連携をとりながら支援している。福島県の精神科救急輪番にも参画しており、措置入院など救急対応を学ぶことが出来る。対象とする疾患は精神科全般だが、近年では児童思春期の患者にも力を入れている。

④ 施設名：一般財団法人竹田健康財団 竹田総合病院

- ・施設形態：総合病院
- ・院長名：本田 雅人
- ・指導責任者氏名：小藺江 浩一
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 144 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	920	108
F1	124	23
F2	1217	206
F3	1420	147

F4 F50	1083	46
F4 F7 F8 F9 F50	1398	60
F6	52	2
その他	271	12

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

- ① 総合病院内にある有床精神科である。
- ② 精神科救急病棟、認知症病棟（閉鎖）、慢性期重症病棟（閉鎖）、ストレスケア病棟（解放）の4つの病棟があり、すべての精神科疾患に柔軟に対応できる。
- ③ 入院・外来数が非常に多く、多数の症例を経験できる。
- ④ 病床数が多く、単科精神病院の機能も有しているので、統合失調症や双極性障害などの治療が急性期から退院後のリハビリテーションまで一貫して行える。
- ⑤ 総合病院内にあるので合併症治療がスムーズに行える。
- ⑥ 橋本脳症やCNS ループスなどの症状精神病やがんの緩和ケアなど、一般科と協力してリエゾン・コンサルテーション医療が行える。
- ⑦ ことに、小児科病棟との連携で児童思春期の摂食障害などにも対応できる。
- ⑧ 救急指定病院で1日100名以上の救急患者が受診し、会津地域精神科輪番救急病院の漢字病院となっている。さらに、精神科にいわゆるスーパー救急病棟を有しているため、精神科救急の経験も十分に積むことができる。
- ⑨ 大規模デイケアがあり、専任の精神科訪問看護師が5名いる。さらにピアのスタッフを常勤で雇っており、通常の訪問看護だけでなく、アウトリーチ的対応も行っている。
- ⑩ 毎週アルコール依存症の集団療法と統合失調症とうつ病、双極性障害の方のための心理教育（本人教室）を行っている。
- ⑪ 措置入院・医療観察法の鑑定入院を受け入れており、司法精神医学を勉強できる。
- ⑫ 精神科専属の臨床心理士6名、作業療法士9名、ソーシャルワーカー5名を有し、個別対応でのカウンセリングや作業療法を行っている。そのほかに言語聴覚士や理学療法士も適宜個別の対応を行っている。
- ⑬ クロザピンによる難治性統合失調症の治療ができる数少ない施設の一つである。
- ⑭ 麻酔科と連携し、手術室でm-ECTを行っている。
- ⑮ 認知症治療疾患センターを持ち、地域の認知症治療の中核を担っている。

⑤ 施設名：医療法人安積保養園附属あさかホスピタル

- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：佐久間 啓
- ・指導責任者氏名：新国 茂
- ・指導医人数：(9) 人
- ・精神科病床数：(495) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	324	148
F1	22	19
F2	681	445
F3	607	170
F4 F50	277	23
F4 F7 F8 F9 F50	337	8
F6	24	12
その他	218	25

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、許可病床 495 床の精神科病院で、精神科救急病棟 60 床を有しており、地域の精神科基幹病院として医療観察法による鑑定入院及び措置入院をはじめ多数の入院を受け入れている。就学前の児童からお年寄りまで「心」の診療を幅広く総合的に行っている。器質性精神障害・認知症（F0）、統合失調症（F2）、気分障害（F3）、神経症性障害（F4）などをはじめ、多彩な疾患、症例を経験することが可能である。精神科病棟（入院基本料 15 対 1）、認知症治療病棟、精神療養病棟、特殊疾患病棟も有している。

難治性統合失調症に対するクロザリルの登録医療機関であり、m-ECT（修正型電撃けいれん療法）も実施している。身体的治療については内科医、脳外科医、小児科医、歯科医が勤務し、MRI、CT、骨密度、エコー、内視鏡検査の体制を整えており、統合失調症や認知症の方の血液透析も行っている。血液・尿検査も 1 時間程で結果報告を行える体制となっている。

児童・思春期領域の治療も積極的に行っており、発達障害に関しては、リハビリとして感覚統合訓練、親へのペアレントトレーニング等を行い、病院敷地内にある関連施設の総合発達支援センター「Alba」での相談支援や就学前児童のデイサービス、或は就学児童の放課後デイサービス等とも連携している。作業療法士をはじめ臨床心理士、精神保健福祉士、言語聴覚士などコメディカルが多数勤務しており、児童へのチーム医療の体制がとても充実している。

また、当院では先進的に地域移行に取り組み、平成14年に始動した「ささがわプロジェクト」では統合型精神科地域治療プログラム（Optimal Treatment Project: OTP）に基づき、90人の方々が地域移行し、診察やデイケア、訪問看護などの医療サービスとNPO法人アイキャンによる生活支援や就労訓練をチームとして統合的に行ってきた。現在NPO法人アイキャンではグループホームで約150人の生活支援を行い、Kふぁーむという農場、パン工房、そしてイタリアンレストランでの就労支援も行い、グループとして障害者雇用も幅広く取り組んでいる。リハビリ部門は精神科作業療法や精神科デイケア、精神科デイナイトケア、精神科ナイトケア、重度認知症患者デイケアなどがあり、訪問看護は、年間9500件を超えており、多職種がチームとして多彩なプログラムとサービスを提供している。

⑥ 施設名： 医療法人為進会 寿泉堂松南病院

・施設形態： 医療法人 単科精神科病院

・院長名： 今泉 修一

・指導責任者氏名： 今泉 修一

・指導医人数：（ 3 ）人

・精神科病床数：（ 215 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	60	82
F1	11	9
F2	97	181
F3	114	54
F4 F50	61	12

F4 F7 F8 F9 F50	3	1
F6	1	1
その他	26	11

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

外来患者さんはうつ病圏(F3)が多く、入院患者さんは統合失調症圏(F2)が多い。認知症圏(F0)、神経症圏(F4)の患者さんも多く、幅広く疾患を経験できる。症例数は少ないが、アルコール依存症の院内勉強会を週一回の頻度で行っている。また、医療観察法の鑑定入院も積極的に受け入れているため、司法精神医学を学習する機会も得られるかも知れない。

⑦ 施設名：医療法人 板倉病院

- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：海野幸浩
- ・指導責任者氏名：海野幸浩
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 154）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	44	8
F1	20	5
F2	303	126
F3	340	22
F4 F50	258	5
F4 F7 F8 F9 F50	48	5
F6	2	0
その他	105	2

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

地方都市にある単科精神科病院である。入院医療は統合失調症を中心とした精神科一般である。入院中は作業療法等が中心となり、長期入院者を始め退院のためには地域資源を活用し退院支援を積極的に行っている。措置入院、医療保護入院等の非自発性入院や行動制限を必要とする症例も多い、外来では気分障害、神経症性障害が多く、厳しいストレス社会を反映した多彩な症例を経験でき、精神療法的アプローチを学ぶことが出来る。精神科医としての基本的な資質を身に着け、外来・入院から退院、更に退院後の生活支援に至るまで責任を持って対応できる能力を獲得することが出来る。

⑧ 施設名：医療法人落合会 東北病院

- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：落合 紳一郎
- ・指導責任者氏名：落合 紳一郎
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 212 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	175	87
F1	52	24
F2	511	495
F3	424	43
F4 F50	338	24
F4 F7 F8 F9 F50	585	132
F6	9	0
その他	67	12

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、昭和 35 年に開設以来、この地域で唯一の単科の精神科病院（212 床）で、老人保健施設を併設、さらに、居宅介護支援事業所の運営、地域包括

支援センターや認知症初期集中支援チームを受託し、病院だけではなく施設間の連携良く、地域に根ざした病院運営を心がけている。

地域の精神科病院として児童思春期から壮年期、老年期まですべての年代を対象として、統合失調症、気分障害、認知症、ストレス関連障害、アルコール依存、発達障害、知的障害など幅広い精神科臨床を経験できる。

精神科外来診療はもとより、精神科急性期治療病棟、精神科一般病棟、精神科療養病棟があり、早期退院をめざしてクリニカルパス的考えをもとにした急性期治療の実施や多職種で構成した総合相談支援室を中心とした退院支援プログラムの実施、デイケア、グループホーム、訪問看護、家族会、指定就労継続支援 B 型作業所等の運営により、精神科急性期治療から社会復帰、そして地域生活支援まで幅広く経験を積む事ができる。

⑨ 施設名：医療法人湖山荘 あずま通りクリニック

- ・施設形態：外来サテライト（精神科クリニック）
- ・院長名：小林直人
- ・指導責任者氏名：小林直人
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	9 5 0	0
F1	1 0	0
F2	5 0 0	0
F3	2 0 0	0
F4 F50	5 0 0	0
F4 F7 F8 F9 F50	5 0 0	0
F6	9	0
その他		

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

各種認知症の仮性認知症例から重度処遇必要例や、ストレス関連の疾患や児童～思春期の発達障害、不登校、不適応例など福祉的フォローも含め対応している。

認知症のデイサービス・デイケアや、精神科デイケアも扱っていて、生活を
楽しみ、豊かにを促している。

⑩ 施設名：医療法人湖山荘 福島松ヶ丘病院

- ・施設形態：私立単科精神病院
- ・院長名：山本俊昭
- ・指導責任者氏名：山本俊昭
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 176 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	13	8
F1	7	8
F2	461	190
F3	275	40
F4 F50	106	7
F4 F7 F8 F9 F50	190	80
F6	4	0
その他		

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

措置入院も含め精神科一般と精神科療養病棟を営んでいる。児童・思春期の
対応困難例やあずま通りクリニックでの認知症に伴う問題言動の例などである。

外来では入院例の疾患の他に、伊達市などの福祉的なフォローとしてのひき
こもりなど各種疾患例も扱っている。

⑪ 施設名：医療法人済精会 長橋病院

- ・施設形態：特定医療法人の単科の精神科病院
- ・院長名：本多幸作
- ・指導責任者氏名：本多幸作
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 180 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	127	30
F1	5	16
F2	24	222
F3	73	66
F4 F50	80	18
F4 F7 F8 F9 F50	25	1
F6	2	4
その他		

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

初診患者は認知症、気分障害、神経症性障害が多い。一方入院患者は統合失調症が圧倒的に多いが、新しい入院は気分障害が多い。認知症の入院が増えてはいるが初診の数からすれば入院する割合は多くはない。

併設施設等：認知症専門外来、精神科訪問看護、精神科デイケア、グループホーム、共同住居精神科作業療法、精神科救急輪番、

⑫ 施設名：医療法人慈心会村上病院

- ・施設形態：私立単科精神科病院
- ・院長名：村上敦浩
- ・指導責任者氏名：村上敦浩

- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 118 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	195	110
F1	12	5
F2	91	48
F3	131	42
F4 F50	132	10
F4 F7 F8 F9 F50	48	1
F6	1	0
その他	15	2

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、118床の精神科単科の病院である。

精神科病院としては小規模であるが、認知症専門外来、及び認知症治療病棟を備えており、認知症疾患の治療を積極的に引き受けていることが最大の特徴である。入院及び外来患者の半数は認知症疾患であり、認知症の診断、治療、マネジメントを多数経験することができる。

加えて、川俣町の初期集中支援チームの委託を受けているほか、訪問看護も実施しており、地域へ出向いてのアプローチも行っている。

福島市・川俣町の各地域包括支援センターとの連携も密にとっており、地域における認知症に関する課題も多数学ぶことができ、多職種連携の在り方の一つを体験できると考える。

また、児童思春期専門外来を週1回開設していることも特徴である。

その他、主に慢性期の精神疾患を対象とした、精神科デイケア、精神科作業療法、SSTも実施しており、精神障害者の地域移行における課題、マネジメントを経験することができる。

⑬ 施設名：医療法人篤仁会 富士病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：大野 篤志
- ・指導責任者氏名：大野 篤志
- ・指導医人数：（２）人
- ・精神科病床数：（２８２床：医療法上 １５３床：稼働病床）
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	５０	５０
F1	１０	１０
F2	７０	１００
F3	２０	２０
F4 F50	４０	２０
F4 F7 F8 F9 F50	５	０
F6	５	０
その他	７０	１

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

福島県の民間単科精神科病院であり、福島県精神科救急施設輪番病院であり、地域精神科医療に積極的に取り組んでいる。専門医療としては、医療観察法の指定通院医療機関であり、精神鑑定も含め司法精神医学に特に積極的に取り組んでいる。

⑭ 施設名：医療法人明精会 会津西病院

- ・施設形態：民間病院
- ・院長名：羽金淑江
- ・指導責任者氏名：羽金淑江
- ・指導医人数：（ ２ ）人

・精神科病床数：（ 310 ） 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	230	82
F1	75	25
F2	345	68
F3	463	38
F4 F50	320	13
F4 F7 F8 F9 F50	161	1
F6	27	6
その他	12	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

精神科病棟と内科病棟を併設する民間病院である。

入院治療では、急性期治療病棟を中心に、入院精神医療全般について対応している。数日間の休息のために入院を希望する症例から、措置入院など非自発的入院や行動制限を必要とするような症例まで、幅広く経験できる。福島県内でも高齢化率の高い会津地方のニーズとして、南会津地域を含めた介護施設内で対応できないような重症のBPSDの入院症例も増えている。また、アルコール依存症の治療プログラムを持ち、クリニカルパスを用いて多職種で治療にあたっている。医師を始め、看護スタッフやコメディカルの多くが、久里浜研修を終了しており、チームとして協働している。内科病棟68床を持ち、内科専門医5名、小児科医1名、外科医1名が勤務しているところから、他科医と連携を取りながらの、合併症の治療も可能である。同時に、内科病棟入院中のせん妄治療を依頼されることもあり、高齢者医療の実際を経験できる。

外来では、幅広い年齢層（2才から100才まで）の受診があり、発達障害や子供の神経症的行動異常の診断・治療にあたることも増えている。不定期ではあるが、地域の小児科医や教育関係者を交えてのカンファレンスなども行っている。心理技術者や言語聴覚士などのスタッフも経験豊富で、ペアレントトレーニングなどの教育プログラムを学ぶこともできる。

このほかにも、慢性期の統合失調症患者の退院支援・地域移行活動や、新オレンジプランに基づく認知症初期支援チームの構築など、地域に密着した精神

科医療を実践している。

⑮ 施設名：公益財団法人磐城済世会 舞子浜病院

- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：本田教一
- ・指導責任者氏名：本田教一
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 203 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	96	122
F1	37	19
F2	351	167
F3	177	52
F4 F50	198	9
F4 F7 F8 F9 F50	493	26
F6	6	2
その他	175	9

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

舞子浜病院は、公益財団法人磐城済世会 松村総合病院に付設された精神科病院である。当院は福島県浜通り地域の精神科中核施設として精神科急性期病棟を備え、精神科救急医療輪番ネットワークの基幹病院として参画している。病棟では、個別性を重視したユニットケアを採用し、外来・入院を通じて多職種チーム医療を実践している。

具体的には、日頃から精神障害者のコミュニティーケアやエンパワーメントを重視し、専門外来(認知症、てんかん、児童思春期、アルコール各外来)、精神科デイケア・シニアデイケア、外来及び入院作業療法、言語療法、多職種による精神科訪問看護、医療観察法指定通院医療、当事者支援(家族会・患者会支援、共同住宅・グループホーム設置)などにも力を注いでいる病院である。院内で、アルコール依存症治療プログラム、C-SSTプログラムも実施されています。総合病院での精神科外来

も設置されていて、松村総合病院内にとどまらず、地域の病院・医院とのコンサルテーションリエゾン活動は盛んに行われており、この分野に関して地域の勉強会も開催されている。

また、当院は現場での教育、研修に力を入れており、前期研修医、臨床心理士、作業療法士、精神保健福祉士、看護師、養護教諭大学院生など多くの医療関連スタッフの精神科臨床研修の場を提供している。特に、研修医の前期研修に関しては、福島県立医大病院、福島労災病院の協力型病院として機能を分担している。また、当院は措置入院患者、児童思春期症例、器質性・症状精神病も含めて症例数が豊富なので、後期研修先(精神神経科)として、精神保健指定医、精神科専門医取得には好適な病院である。

当院には現在、精神保健指定医・精神科専門医 4 名(うち指導医 3 名)、内科・総合診療医 2 名が在籍しており、

さらに、大学との連携では、遠隔会議方式のセミナー研修(F-PEN)などの指導体制も整備されている。

*併設移設等：急性期病棟、療養病棟、応急指定病院、精神科デイケア(大規模)、シニアデイケア、精神科作業療法、言語療法室、訪問看護室(多職種)、認知症疾患医療センター、共同住居・グループホーム、精神科救急輪番(幹事病院)、医療観察法指定通院医療機関 etc.

⑩ 施設名：公益財団法人金森和心会 針生ヶ丘病院

- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：金森 良
- ・指導責任者氏名：金森 良
- ・指導医人数：(3) 人
- ・精神科病床数：(451) 床
- ・疾患別入院数・外来数(年間)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	69	106
F1	3	27
F2	29	402
F3	62	133

F4 F50	46	35
F4 F7 F8 F9 F50	103	21
F6	1	3
その他	4	15

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）
- ・昭和 8 年に福島県では最初の精神科病院として開設した。以来 80 年にわたり「和の心」「明るく優しく温かく」を基本理念として、精神障害者のための医療、介護、保健、福祉、地域の人々の健康保持・増進に努めている。
- ・精神科急性期治療病棟（55 症）では、急性期、措置入院、思春期の患者の担当医となり、精神保健指定医や専門医資格取得に必要な症例の研修ができる。
- ・発達障害児（特に小児自閉症）と家族の成育支援を実施している成育支援室において、発達障害児の診断、療育の指導を受けられる。
- ・常勤内科医がおり、当院内で精神症状を持つ患者さんの身体疾患の治療を行っているので、身体合併症治療の指導を受けられる。

⑰ 施設名：公益財団法人金森和心会 雲雀ヶ丘病院

- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：熊倉徹雄
- ・指導責任者氏名：熊倉徹雄
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 254 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	91	28
F1	13	17
F2	31	45
F3	87	19
F4 F50	83	5

F4 F7 F8 F9 F50	105	7
F6	0	2
その他	26	3

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）
- ・昭和31年に福島県の相双地域で唯一の精神科病院として開設した。以来60年にわたり「和の心」「明るく優しく温かく」を基本理念として、精神障害者のための医療、介護、保健、福祉や地域の人々の心の健康保持・増進に努めている。
- ・平成23年3月の東日本大震災・原発事故（以降、大震災）前は、全病床数254床、4看護単位で運営していた。その内訳は、精神一般病棟3病棟・194床、認知症治療病棟60床であった。
また、入院以外では、精神科外来、精神科訪問看護、精神科デイケア、精神科作業療法などを実施していた。
- ・大震災の際、当初、当区域が屋内退避区域に設定され、平成23年3月17日までに全入院患者を県内外の病院へ転院させ、一旦、休院となった。
その後、平成23年6月に外来一部再開、平成24年1月に精神科急性期対応型病棟（60床）、平成25年11月には認知症治療病棟（60床）を再開した。
- ・精神科急性期対応型病棟では、幅広い疾患患者（統合失調症、感情障害、ストレス関連疾患、アルコール依存症、BPSDの顕著な認知症など）の、認知症治療病棟ではBPSDが軽快し、生活機能訓練参加が可能な認知症患者の担当医となる。また、医療保護入院、措置入院患者の担当医となり、精神保健指定医や専門医資格取得に必要な症例の研修ができる。
- ・児童精神科外来では発達障害児の診断、治療の指導を受けられる。
- ・大震災以降、相双地域において原発以北で稼働している唯一の精神科病院であるため、災害精神医療について学ぶことができる。
- ・当直は1人体制であるが、非指定医が当直の場合は指定医が待機しバックアップ体制をとっているため、精神保健指定医の指導を受けながら、当直業務が出来る。

⑱ 施設名：公益財団法人星総合病院 星ヶ丘病院

- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：沼田吉彦
- ・指導責任者氏名：竹内 賢
- ・指導医人数：（ 5 ）人

・精神科病床数：（ 570 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	140	191
F1	25	58
F2	348	749
F3	116	616
F4 F50	46	366
F4 F7 F8 F9 F50	31	923
F6	4	32
その他	3	12

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

星ヶ丘病院精神科は、精神科急性期治療病棟（60床）、認知症治療病棟（60床）を含め、多様な疾患に対応する病棟機能を有し治療を行っている。患者数は、入院患者が300名余りで毎月各30～40名の入院及び退院患者がおり、外来患者は毎日120名を越えている。当院の精神科医療は、星ヶ丘病院と星総合病院（外来）及び町立三春病院（外来）で行っており、専門外来として、ストレス外来・児童外来・もの忘れ外来を実施するなど患者が訪れやすい体制を整えている。また、精神科急性期治療病棟として、福島県精神科救急医療輪番システムに参加し、幅広く、数多い症例をみる事ができる。社会復帰には力を入れており、社会復帰促進病棟の運用と大規模デイケアや訪問看護ステーションの利用や関連法人の精神障害者生活訓練施設及び小規模作業所と連携を行っている。そして、患者の病状を充分把握した上でチーム医療として患者に関わっている。

⑱ 公立大学法人福島県立医科大学 会津医療センター附属病院

・施設形態：総合病院

・院長名：鈴木啓二

・指導責任者氏名：川勝 忍

・指導医人数：（ 3 ）人

・精神科病床数：(0) 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	250	0
F1	30	0
F2	116	0
F3	294	0
F4 F50	320	0
F4 F7 F8 F9 F50	90	0
F6	30	0
その他	10	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、226床24診療科からなる総合病院で、とくに、もの忘れ専門外来、若年認知症専門外来、児童専門外来を置いており、他にも、うつ病、統合失調症を含む多種多様な精神疾患の外来診療について経験することが可能である。また、緩和ケア病棟（18床）を有しており緩和ケアについて研修が可能である。

⑳ 施設名：社会医療法人一陽会 一陽会病院

・施設形態：単科精神科病院

・院長名：寺山 賢次

・指導責任者氏名：寺山 賢次

・指導医人数：(2) 人

・精神科病床数：(192) 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	22	8

F1	53	9
F2	758	215
F3	866	119
F4 F50	501	43
F4 F7 F8 F9 F50	105	22
F6	9	2
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

福島県北部にある精神科・心療内科の病院の中では、唯一、急性期治療病棟を持つ。ストレス関連疾患の治療環境に配慮したストレスケア病棟もある。主に思春期青年期から壮年期にかけての統合失調症やうつ病、さらに適応障害や不安障害などの症例が豊富に経験できる。特に、リワークプログラム（職場復帰支援プログラム）、うつ状態の方を対象にした集団認知行動療法、就労支援プログラムなどのプログラムを備え復職までの流れを経験できる。病院全体での現在の平均在院日数は150～160日で推移しているが、急性期治療病棟での平均在院日数は40日前後であり、入院患者が出来る限り早期に退院できるよう多職種チームで取り組んでいる。長期入院患者の退院促進にも積極的に取り組み、訪問看護やデイケア、グループホームなど多様な治療プログラム・施設を提供し、患者の地域生活を支援している。

また、精神科救急、医療観察法患者や刑事精神鑑定の事例を通し、司法精神医学領域の症例を経験することができる。

②1 施設名：福島県厚生農業協同組合連合会 塙厚生病院

- ・施設形態：総合病院
- ・院長名：佐川 恵一
- ・指導責任者氏名：宮本 百合子
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 124 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
----	-----------	-----------

F0	430	50
F1	30	8
F2	230	40
F3	50	6
F4 F50	150	40
F4 F7 F8 F9 F50	20	0
F6	10	3
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

地域唯一の総合病院であり、有床総合病院精神科としてコンサルテーション・リエゾン精神医学に力を入れている。そのため、身体合併症を有する精神疾患患者の治療や、せん妄、器質・症状性精神障害などの症例を数多く経験でき、他科との協同の中で精神疾患・精神症状に対応する総合病院精神医学を学ぶことが出来る。また、最近では認知症の症例が多く、老年期精神障害についても経験を積むことが可能である。一方、地域における精神科診療の多くを担っているため、入院・外来を含めた一般精神科医療についても十分な経験を積むことが可能であり、一般精神科と総合病院精神科とをバランス良く学ぶことが出来る。

② 施設名：福島県総合療育センター

- ・施設形態：一般病院精神科（発達障害者支援センター併設）
- ・院長名：武田浩一郎
- ・指導責任者氏名：増子博文
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	0	0
F1	0	0

F2	0	0
F3	0	0
F4 F50	0	0
F4 F7 F8 F9 F50	187	0
F6	0	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

福島県総合療育センターは児童を対象とする施設である。医療法上は病院であり、児童福祉法上では児童福祉施設である複合的な機能を有する施設である。肢体不自由児、重度心身障害児の入院機能と、精神科・小児科・整形外科・耳鼻咽喉科・眼科・泌尿器科・歯科・リハビリテーション科の外来機能を有している。精神科外来診療は、自閉スペクトラム症・注意欠如多動症・学習障害・知的障害の診断と療育を中心に行われている。また、発達障害者支援センターを併設しており、自閉症の診断、県内療育施設への地域支援を行っている。

②③ 施設名：福島県立矢吹病院

- ・施設形態：公的単科精神科病院
- ・院長名：横山 昇
- ・指導責任者氏名：横山 昇
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 199 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	11	19
F1	12	8
F2	28	177
F3	44	31

F4 F50	89	6
F4 F7 F8 F9 F50	53	23
F6	1	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

福島県で唯一の公的単科精神病院である。199床を有する県南地域の中核病院であり、病院の全面改築とセンター化構想が始まっている。精神科急性期治療病棟（将来はスーパー救急病棟化）において、措置入院・応急入院等の精神運動興奮を伴う急性期患者（F0－F4）の治療を実践するとともに、デイケア（大規模）や作業療法等の精神科リハビリテーションを体験し、さらには訪問看護における地域での支援活動に参加することにより、精神疾患患者の総合的な入院治療の流れを習得する。慢性・重症病棟では、他病院から紹介される重症・慢性患者やマッチング事業（原発事故で他県に転院したままの相双地区患者の帰還支援事業）対象者の受入を体験し、クロザピン治療（当院はクロザリル登録医療機関）などの特殊な精神科薬物療法や内科常勤医と共同での身体合併症治療のノウハウを習得する。また、当院は医療観察法指定通院医療機関であるが、現在医療観察法病棟の整備を検討中であり、入院医療機関に指定されれば対象者への入院・通院治療を一貫して体験することが可能になる。また、各種鑑定（入院も）や措置入院を積極的に受けているので、司法精神医学に関する見識を深めながら各種ケースレポートに適合する症例を経験することができる。児童思春期外来では児童青年期の患者（F2－F9）の外来治療（必要時には入院も可）を習得でき、将来は専用病棟が整備される予定のため、改築後は学校や行政諸機関と連携しての入院症例の経験も可能になる。外来のアウトリーチ部門では、市町村や保健福祉事務所と連携して、引きこもりや未受診者へ等への訪問を経験し、地域での保健・福祉活動に理解を深めることができる。

④ 施設名：福島赤十字病院

- ・施設形態：準公的総合病院
- ・院長名：渡部洋一
- ・指導責任者氏名：後藤大介
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 41 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

・ 疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	149	14
F1	21	11
F2	72	29
F3	223	35
F4 F50	211	17
F4 F7 F8 F9 F50	6	1
F6	1	1
その他	22	3

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、一般病棟 300 床、24 診療科を有する総合病院であり、コンサルテーション・リエゾンでは、多彩な疾患、症例を経験することが可能である。緩和ケアチームに参加し、がん医療における精神医学的ニーズに関して学び、治療経験を積むこともできる。

また、50 床の精神科閉鎖病棟を有しており、政策医療としての身体合併症治療に加え、うつ病、精神病性障害、身体表現性障害を含む多様な精神疾患の入院治療の実践経験を積むことができる。加えて、麻酔科の協力の下、修正電気けいれん療法も行われている。

当院は、県北および相双地区の 2 つの二次医療圏を担う地域型認知症疾患医療センターであり、認知症の診断、治療、マネジメントについても実践的な経験を積むことが可能である。

3. 研修プログラム

1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳に従って専門知識を習得する。

研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1)患者及び家族との面接、2)疾患の概念と病態の理解、3) 診断（ICDに基づく。DSMなど国際的診断基準も知る）と治療計画、4) 補助検査法（神経学的検査、心理検査、脳波、脳画像検査など）、5) 薬物・身体療法、6) 精神療法、7) 心理社会的療法、精神科リハビリテーション、及び地域精神医療・保健・福祉、8) 精神科救急、9)

リエゾン・コンサルテーション精神医学、10) 法と精神医学（鑑定、医療法、精神保健福祉法、心神喪失者等観察法、成年後見制度等）、11) 災害精神医学、12) 医の倫理（人権の尊重とインフォームドコンセント）、12)安全管理。
各年次毎の到達目標は以下の通りである。

到達目標

最初の 2 年間は原則的に基幹病院である福島医大病院にて研修し、3 年目は福島医大精神科専門医研修プログラム連携施設である精神科病院または総合病院の精神科等で研修を行う。

1, 2 年目：基幹病院または連携病院で、指導医と一緒に統合失調症、気分障害、アルコール、精神作用物質による精神障害、症状性または器質性精神障害、認知症、てんかん、児童思春期精神障害、神経症性障害、摂食障害、パーソナリティ障害等の患者を入院、外来を通じて受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学ぶ。また、基幹病院は総合病院であるため、身体科とのリエゾン精神医学的アプローチの経験や、当院に特色のある児童思春期から成人期へ幅広い年代の発達障害への治療経験を持つ。

特に面接によって診療情報を抽出するのみならず、各種検査を用いて多角的に精神科診断を下せるようにすることを目標とする。生物学的精神医学のみならず、精神療法の習得を目指すため、認知行動療法、精神分析・精神力動療法、森田療法などのいずれかのカンファレンスやセミナーへ参加する。

また、症例報告は、院内の病棟連絡会議、福島県精神医学会、東北精神医学会などの学会で発表・討論出来るようにすることを目標とする。

3 年目：指導医から自立して診療できるようにすることが目標である。そのため、原則的には研修プログラム連携施設である一般の精神科病院あるいは総合病院の精神科にて研修を行う。研修先でも引き続き、認知行動療法や力動的療法法の習得、生物学的知見に基づいた薬物療法法の習得に務める。また、基幹施設と各連携施設を結ぶ電話会議システムの福島県立医科大学神経精神医学講座 F-PEN セミナープログラムを用いることで月 2 回程度の F-PEN セミナーを開催し、症例検討会や最新の精神科領域の知見の研修を行う。なお、F-PEN セミナー電話会議システムは近々 web 会議システムに移行予定である。

引き続き、経験した症例を外部の学会・研究会などで積極的に症例報告をする。

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」（別紙）、「研修記録簿」（別紙）を参照。

3) 個別項目について

① 倫理性・社会性

大学病院である基幹施設において開催される倫理講習会に参加する。また、基幹施設は総合病院であり、三次救急医療機関でもあるので救急科をはじめとした他科の医師からのコンサルテーションが多い。他科との連携に基づきリエゾン診療を行うことで責任感や社会性、倫理観などについても多くの先輩や医療スタッフからも学ぶ機会を得られる。

② 学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽し、自己学習することが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を病棟の症例検討会で症例報告をすることを基本都市、その過程で過去の類似症例や最新の知見を文献的に調査する姿勢を心がける。特に興味深い症例については、学会への発表や論文作成を進める。

③ コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1)患者関係の構築、2)チーム医療の実践、3)安全管理、4)症例プレゼンテーション技術、5)医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに、精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、コンサルテーション・リエゾンといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。

④ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

基幹施設において、臨床研究、基礎研究に従事し、その成果を学会や論文として発表する。なお、年一回開催される福島県精神医学会において症例報告を行うことは必須である。

⑤ 自己学習

受け持ち症例の治療にあたり、類似症例の検索や診断・治療技術を文献検索することにより、最新の知見に基づく治療方針の決定を心がける。

4) ローテーションモデル

典型的には1, 2年目に基幹病院である福島県立医科大学附属病院にて研修を行う。ここで精神科医としての基本的な知識・技能・態度を身につける。その後、3年目以降は原則的に連携施設（B①～④）にて研修を行う。

5) 研修の週間・年間計画

別紙 2 と別紙 3 を参照。

4. プログラム管理体制について

- ・プログラム管理委員会
 - 委員長 医師：矢部博興
 - 医師：三浦至
 - 医師：板垣俊太郎
 - 医師：志賀哲也
 - 医師：松本純弥
 - 看護師：野地成子
 - 臨床心理士：松本貴智
 - 精神保健福祉士：國分亜紀子
 - 医師：鈴木喜明
 - 医師：菅野智行
 - 医師：渡部康
 - 医師：小藺江浩一
 - 医師：新国茂
 - 医師：今泉修一
 - 医師：海野幸浩
 - 医師：落合紳一郎
 - 医師：小林直人
 - 医師：山本俊昭
 - 医師：本多幸作
 - 医師：村上敦浩
 - 医師：大野 篤志
 - 医師：羽金淑江
 - 医師：本田教一
 - 医師：金森 良
 - 医師：熊倉徹雄
 - 医師：竹内 賢
 - 医師：川勝忍
 - 医師：寺山賢次
 - 医師：宮本 百合子
 - 医師：増子博文
 - 医師：横山昇

医師：後藤大介

- ・プログラム統括責任者

矢部博興

- ・連携施設における委員会組織

各連携病院の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

5. 評価について

1) 評価体制

福島県立医科大学 附属病院：矢部博興

一般財団法人大原総合病院附属清水病院：鈴木喜明

一般財団法人新田目病院：菅野智行

一般財団法人 桜ヶ丘病院：渡部康

一般財団法人竹田健康財団 竹田総合病院：小藺江浩一

医療法人安積保養園附属あさかホスピタル：新国茂

医療法人為進会 寿泉堂松南病院：今泉修一

医療法人 板倉病院：海野幸浩

医療法人落合会 東北病院：落合紳一郎

医療法人湖山荘 あずま通りクリニック：小林直人

医療法人湖山荘 福島松ヶ丘病院：山本俊昭

医療法人済精会 長橋病院：本多幸作

医療法人慈心会 村上病院：村上敦浩

医療法人篤仁会 富士病院：大野 篤志

医療法人明精会 会津西病院：羽金淑江

公益財団法人磐城済世会 舞子浜病院：本田教一

公益財団法人金森和心会 針生ヶ丘病院：金森 良

公益財団法人金森和心会 雲雀ヶ丘病院：熊倉徹雄

公益財団法人星総合病院 星ヶ丘病院：竹内 賢

公立大学法人福島県立医科大学 会津医療センター附属病院：川勝忍

社会医療法人一陽会 一陽会病院：寺山賢次

福島県厚生農業協同組合連合会 塙厚生病院：宮本 百合子

福島県総合療育センター：増子博文

福島県立矢吹病院：横山昇

福島赤十字病院：後藤大介

2) 評価時期と評価方法

- ・3ヶ月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医とが確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。
- ・その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿/システムを用いる。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」(別紙)に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回おこなう。

福島県立医科大学附属病院にて専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

-専攻医研修マニュアル(別紙)

-指導医マニュアル(別紙)

- ・専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価を行い記録する。少なくとも、年に一回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価をおこなうこと。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

- ・指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価を行い、指導医も形成的評価を行い記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価を行い評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックを行い記録し、翌年度の研修に役立たせる。

6. 全体の管理運営体制

- 1) 専攻医の就業環境の整備(労務管理)
各施設の労務管理基準に準拠する。

- 2) 専攻医の心身の健康管理
各施設の健康管理基準に準拠する。
- 3) プログラムの改善・改良
基幹病院の総括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的に
プログラムの内容について討議し、継続的な改良を実施する。
- 4) FDの計画・実施
年1回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。